

行方市 100 人委員会「第 1 分科会」議事メモ

| | |
|------------|--|
| 議論した基本目標 | 子どもを産みたい希望をかなえすみたいまちをつくる 子育てしやすい地域にする |
| コーディネーター | 石井 |
| 審議員 | 石渡、香本 |
| 説明担当者（自治体） | こども福祉課、健康増進課 |
| 日時 | 2021 年 5 月 30 日（日）16 時 20 分から 17 時 40 分 |
| その他 | 参加者数 <u>会場 4 名</u> <u>オンライン 1 名</u> 欠席者数 <u>16 名</u> |

総括

コーディネーター総括

- 保育園、児童クラブ等は供給量が足りているので、漫然とこれまでの取組みを続けるのではなく、何を充実させるか？ということ、市民を交えて考える必要がある。
- 地域の子育て見守り隊等においては、行政が主体となって充実させるのではなく、地域が主体となって取組み、行政はそれを支援するという関係の仕方がある。
- 母親に対するサービスは充実しているが、子育てを行っているのは、父親や祖父母など様々。母親以外にも対象を拡大した取組みも重要。
- 情報発信は、市民がどうやったら情報を受け取りやすいか？ということを考えて取り組む必要がある。例えば口コミが効果的だと明確に見えているのであれば、そこをターゲットにした、より効果的な広報手段を検討して欲しい。
- 交通網が市内に整備されれば、保護者による送迎が前提から外れるので、進学先の選択肢が増える。交通網も子育てに対して非常に重要な要素である。

協議の流れ（摘録）

テーマ 子育てしやすい地域にする

市) こども福祉課から

基本目標実現シートの読み合わせ部分は割愛。

市) 健康増進課から

基本目標実現シートの読み合わせ部分は割愛。

コ) この場では、担当課からの説明を踏まえ、次のことについて

- ・ 保育ニーズ（0 歳～小学生）への対応
- ・ 妊娠～産後～子育ての一貫した支援、相談、教室
- ・ 虐待、貧困などの特別なケア

委)：委員、コ)：コーディネーター、審)：審議員、市)：説明担当者

・経済的支援策、情報収集、管理の支援

コ) 検証報告書 P23「行方市の母子保健事業はと自治体に比べ手厚いです」という記載がある。どういったところが手厚いのか？

市) オンライン母子手帳が手厚いところの一つである。

コ) 社会の環境変化や、なぜ新たなサービスが求められているのかといったことを踏まえ、行方市の取組みの特徴はどのようなところにあるか？

市) 母親同士の交流を深めてもらったり、互いに相談し合えるような環境・場づくりに力を入れているところにある。

審) 25～44歳の女性就業率が平成27年時点で79.4%と高く、国の想定値80%に近い。また、待機児童もゼロであることから、サービスの供給量は充足しているように見受けられる。この認識は正しいか？

市) 正しい。県内でも高い水準であると思う。

審) 供給量が足りているのであるならば、「保護者のニーズに対応した充実」とは、次は“質の向上”を狙うという風にとらえられるが、具体的な考えがあるか？

市) 具体的な案はない。

審) 例えば、「隠れ待機児童」という言葉がある。数値上の待機児童数はゼロだが、そういったニーズについて把握しようという取り組みや、働く親世代からの声は届いていないか？

市) 保育の環境等を考えても充足している状態で、隠れ待機児童が発生しているとは考えていない。

審) 委員の周りにもそういった声は聞こえてこないか？

委) 預かり期間や夏休み期間中のことは聞くが、入園できないなどの話は自分の周りではあまり聞こえてこない。

審) 「母親」以外へのアプローチを知りたい。「母親同士の情報交換」などは取り組んでいるとのことだが、こういった場に父親や祖父母なども参加できているか？また、父親同士の情報交換の機会などはあるか？例えばシングルファーザーなどは、「母親」の集まりに参加しづらいという意識もあるかと思う。

市) 母親だけでなく、夫婦での子育てを促す取組みなどを行っている。

コ) 母親が一人で育児するのが当然の環境だと、2人目3人目を産もうという考えにつながりにくい。母親以外の子育ての担い手が参加しやすい取組みがあっても良いのではないか。

委)：委員、コ)：コーディネーター、審)：審議員、市)：説明担当者

コ)「講座の種類を増やした」、「ある講座の参加者が増えた」などの成果はあるか？
市)実績の数値は把握していない。満足度調査アンケートは取っており、年々向上している。

委)二世帯住宅や近距離に祖父母世帯がある地域もあるので、祖父母世代からの支援は受けやすいことも、女性就業率の向上に影響を与えているかと思う。

委)公民館や児童館に、アスレチックなどがあり、子どもを連れて行ったことがある。
そのとき、「子育て・母親がどれだけ大変か」という掲示物を読んで、大変さについて考えたことがある。

委)祖父母がまだ若くて現役で働いている場合は、祖父母には頼みづらい。
保育園が預かってくれた対応は非常にありがたかった。行政に相談できる機会・環境があるのは非常に良い。

コ)ファミサポなどの各種行政の取組みに対する利用者実感が他にもあれば教えて欲しい。

市)子育て支援の満足度調査を行ったところ、市民満足度は向上している。

コ)その調査の中で、祖父母が近くに住んでいる・祖父母に子育て支援をお願い出来るといった背景も調査できているか？

市)できていない。

コ)祖父母へ子育て支援をお願いする土壌ができているのであれば、ファミサポよりも祖父母との関係を良好にするような支援策を実施する方が行方に合うかもしれない。そのような分析をしてあると何に力を入れるべきかが見えてくる。

委)子が病気の時に預かってくれるところはある？

市)病後保育はあるが、病気の時には預かってくれるところはない。

コ)「子育てしやすい地域にする」という目標ならば、子育てしにくいという部分があるのでは。みんなが子育てで困っている、障壁になっているものを分析しなければ、子育てしやすいに変えていけない。どんなハードルがあると思うか。

委)子どもが成人するまでを子育てとして捉えると、子どもたちが中高以上に進学する年齢になったときに、子どもだけでは通学しづらいということも、子育てのしづらさ・住みにくさのひとつだと思う。少し離れた地域へ進学した場合は、家族の送迎ありきになっている現状がある。

交通網が市内に整備されれば、家から進学できる市内外の選択肢が増えるので、交通網も子育てに対して非常に重要なものだと考える。

コ)現代においては、近場の高校へ進学するのが当たり前ではない。交通について今この会で深掘りすることはできないが、重要な要素であると思う。交通インフラの担当課に

も伝える。子育て担当課だけでの議論では生まれない意見である。

審) 行方市に限った話ではなく、行政はインターネットや張り紙などで情報を発信しているが、市民がキャッチできている実感が無い。市民の立場で、行政からの情報発信はどのような方法であれば受け取りやすいと考えられるか？

市) HP・広報・メルマガ・電子母子手帳・窓口でのチラシ配布などでの広報を行っている。そのほか、市民同士(母親同士)のネットワークによって口コミなどによっても広まっているのだと思う。

特に、出産時に渡す資料にメルマガやアプリへの誘導はしており、まだ始まったばかりだが、アプリは254人が登録しており、広まり方が早い。

コ) 事例としての紹介だが、自分が広報の担当だったころ「子育て世帯は広報紙を読まない」という実情がわかったことがある。そのとき、子育て情報をカラーに寄せて、それ以外の情報をモノクロページに寄せるという取組みをやったことがある。

審) 「配慮や支援を必要とする児童や家庭の適切な把握と早期対応」とあるが、相談しやすい環境になっているか？

市) 家庭相談をこども福祉課で受けているが、毎年相談件数は増加している(令和2年度で1060件)。市の窓口、保育園などで受けている。電話よりも対面の方が多い。

コ) 市の窓口や園でのみの受付となると、市内全域に平均的ではなく、地区ごとの窓口数が均等でなくなるが、地域に窓口を増やすなどの対応は検討しているか？

市) 行っていない。人員を分散するよりも、現状のまま、ひとつの窓口での集中対応の方が、対応がスムーズだ。

審) 保育園、児童クラブ等は供給量が足りているので、何を充実させるか？ということ、市民を交えて考えて欲しい。

地域の子育て見守り隊等においては、行政が主体となって充実させるのではなく、地域が主体となって取組み、行政はそれを支援するという関係の仕方がある。

児童相談、ファミサポの充実については、取組む主体は行政の比重が高い。

審) 母親“以外”へ支援が見えないということについて、自分が担当していた自治体では、妊娠中に訪れた方に対して、誰が面倒を見る予定なのかなども細かくヒアリングし、その後もウォッチするなどの対応を行っていた。もっと母親以外の子育て担い手に目を向けてもよいと思う。

また、情報発信は、市民がどうやったら情報を受け取りやすいか？ということを考えて取り組んで欲しい。例えば口コミが効果的だと明確に見えているのであれば、そこをターゲットにした、より効果的な広報手段を検討して欲しい。

ホワイトボードの写真 (コーディネーターが議論をまとめた資料含む)

